

企画書

○タイトル

気化猫（仮）

○作品概要

●猫の擬人化作品

飼い猫を擬人化し、聴き手と人間の彼女（後の妻）の3人で過ごす日々を描く。

●舐め音をフィーチャー

キス、耳舐め、フェラチオ等、舐め音をフィーチャー。

彼女（人間）は有声音多めで唾液の粘性も強くねつとり、猫は有声音少なめの鼻息多めで静かにぴちゃぴちゃ、といったようにキャラクターごとに舐め方に個性をつける。

●人生

作中期間は18年。（2018年～2036年）

捨てられていた子猫が聴き手に拾われ、成長し、死ぬまで。

その間に交際していた彼女と結婚したり、大学を卒業し就職したりと環境が変化していく。

●人間と猫の種族間のギャップ

猫は

- ・擬人化している。
- ・日本語で意思の疎通が可能。

上記2点以外は基本的に本来の生態に準拠。

寿命も人間と異なり成長が早い。

参考 URL（省略）

拾った時に赤ちゃんだった子猫はわずかな期間で成長し、聴き手や彼女の年齢を追い越し大人になる。

（ただし成猫以降は見た目、声といった外見的な変化は人間には判別できない。）

また人間ほど複雑な情緒を解さない（一生をかけて徐々に解するようになる）

この種族間ギャップを作中全体の大きなテーマとして扱う。

●ヒロイン同士の関係性の変化

彼女、猫共に聴き手への好感度は最初から MAX。

序盤から思い切りイチャイチャする裏で、ヒロイン同士、お互いに対してはあまり好ましく思っていない。

時間をかけ、関係性が変化し、イベントを乗り越えることで徐々に距離が縮まっていく。

序盤からアダルト要素を充分に確保した上で、別の角度から関係性の変化を描写する。

●老衰と遺族感情

猫はおおむね寿命通りに 16 年（80 歳）でこの世を去る。

最終トラック（エピローグ）にて、猫が死んだあとの二人の生活を描写。

悲しいけれど必要以上の温っぽさはなく、ある種ドライ。

葬式の席で泣くより笑いあえるような温かい気持ち。

病気や不慮の事故等でなく、寿命を全うした人物の遺族ならではの独特的な空気感を描写。

○世界設定

猫が擬人化され、人とほぼ同じ見た目で存在している世界。

猫耳と尻尾。人語を解し意思疎通が可能。

それ以外の生態や社会的な扱いはあくまでも猫であり、愛玩動物として扱われる。

（亜人の人権問題というような暗い社会問題は無い。あくまで現代の猫と同じ扱い。）

飼い猫の避妊、去勢手術は存在するが、基本的には飼い主が相手をして都度発散させるのが主流となっている。（人と猫の間で繁殖はしない）

その他は基本的には現代日本に準拠。

○登場人物

●彼女

本作のヒロイン。人間。

年齢は 20 歳→38 歳。

開始当初は大学生で、卒業後に聴き手と結婚し就職。共働きで生活する。

中流家庭で育ったごく普通の女性。

普通の家庭で生まれ、普通に幼少期を過ごし、思春期にはそれなりの反抗期を経験し、モラトリアムならではのごくごく普通な悩みを抱えている。

聴き手とは同年齢。

大学で知り合い恋人同士となった。

本作における「人間」の象徴。

若かりし頃は子猫と聴き手をめぐって争い、その後いつの間にか自分の歳を追い越した猫の姿に戸惑う。

結婚して悩み、社会に出ては悩み、夫婦のこれからについて悩む。

加齢に伴い声も演技も少しづつ変化していく。

情緒深く、発する言葉は非常に回りくどい。

台詞とニュアンスの両方で感情を表現する。

序盤から終盤まで、一貫して聴き手を心から愛している。

キスが大好き。キスを繰り返していくうちにスイッチが入り、性的に大胆になっていく。

猫に対しては、メスであることや聴き手が避妊手術を選択しなかったこともあり、複雑な感情を抱いている。

S と M の両方の気質を併せもつ。

聴き手に対しては主に M、猫に対しては主に S。

声は中音域でおだやか。

年齢を経るごとに声も性格もすこしづつ落ち着いていく。

キスやフェラチオ、耳舐め等の水音は鼻息や有声音多めで濃厚に。

●猫

本作のヒロイン。猫。名前は「シロ」。

年齢は2か月（●歳）→16年半（83歳）没

道端に捨てられていたところを聴き手に拾われ、一緒に生活することになる。

子猫→成猫（生後1年半/20歳）までは見た目や声が大きく変化するが、それ以降は死ぬまではほぼ変化がない。（人間には判別がつかない）

成猫以降は声色を変えず、演技のみで年齢感を表現。

体格は成猫時点では彼女よりやや小さい。

本作の「猫（動物）」の象徴。

先の事を深く考えず、その日その日の前にある出来事に全力で取り組む。

拾われて以来聴き手の事を心から慕っており、発情期にかかわらず日常的に体の関係を持っている。

感情に素直で直情的。目の前の事に精一杯。

思ったことがそのまま言葉になり、暗喩などは使えない。

後に同居することになる彼女に対しては当初は悪印象を持っており、「聴き手を取られるのでは」という不安に駆られている。

共に過ごす中での関係改善、加齢による精神面の成長と老化（鈍化）、人間とは違う独自のプロセスで「時が解決してくれる」を体現する。

時折、人間らしい複雑な情緒を解しているとみられる言動をとることがある。

（概ね気のせいだが、稀に本質を突いているとしか解釈できない言動も含まれる。）

トラック毎に、年齢に併せてキャラクター性が大きく変化する。（詳しくは後述します。）

声は高め。子猫→成猫のタイミングでやや低くなるがそれでも高め。

- ・子猫時代→幼女～少女
 - ・成猫以降→ティーン
- というイメージです。

擬人化キャラクターだが特徴的な語尾などは使わず、息遣いなどで人外感や獸感などを表現。

キスや耳舐め、フェラチオ等では有声音を少なめにし、無整音や鼻息などを多く入れていたいです。

特に強調していただきたい息遣いなどはカタカナで表記しています。

○ トラック詳細

1. 『「猫は液体」についての見解と考察』

2018年5月。

プロローグにあたるトラック。

● 彼女

- ・20歳。大学3年生。
- ・情事の後のピロートーク。
- ・聴き手と一つのベッドに横になり、お互いに向き合っている状態です。
- ・台詞の合間合間で視線を外す等、軽く動いていただけますと幸いです。
- ・猫とは面識なし。聴き手には絶大な信頼を置いていますが、雌猫である事もあり不安も抱えています。

● 猫

登場しません

8. 『あいつがまだ子猫だった頃にね』

2018年6月。

本編中ではトラック8、エピローグ前のクライマックスに挿入予定のトラック。

時系列的にはトラック1と2の間に相当します。

作中における最後のアダルトパートになる為、明るく激しく濃厚なシーンを目指します。

● 彼女

- ・20歳。大学3年生。
- ・キス、猫の初体験の補助、耳元煽り等。
- ・役割の都合上、位置と動きの指定が非常にややこしくなっています。
- ・聴き手と猫の行為に戸惑いや不安を覚えつつ翻弄される前半とSのスイッチが入り楽しみだす後半でお芝居の落差が大きいですが、極力自然につながるようお願いいたします。
- ・「オイッ」や「待て待て」等、聴き手に対して突っ込みを入れるシーンが複数あります。あくまでコミカルなシーンとして、とげとげしくならないようなニュアンスやイントネーションをお願いします。(イメージとしては小林賢太郎や千鳥のノブ)

●猫

- ・生後 2 ヶ月 (●歳)。
- ・キス、正常位など。
- ・一人称は「シロ」。
- ・声色、お芝居などは概ねこの年齢の幼女、ロリ感で。
- ・性知識がない故の恥じらいのなさと、体験したことのない快感に翻弄されるようなお芝居をお願いいたします。
- ・ト書きに一部、ニブルキス（相手の唇を舌で舐める）の指定があります。その他のキスシーンも含め、出来る限り猫っぽさを強調していただけますと幸いです。

2.『ネコとカノジョのおちんぽ取り合いフェラチオ』

2018 年 10 月

聴き手を取り合いながら、交互にフェラチオを行うトラック。

作中において、彼女と猫の仲が最も悪いトラックですが、やり取りがあまり殺伐とし過ぎないようにコミカルな雰囲気にとどめていただきますようお願いいたします。

●彼女

- ・20 歳（大学 3 年生）
- ・猫に対しては、嫌ってはいないが聴き手との肉体関係がらみで複雑。スルーなどでいなす描写が多いです。
- ・50P 「しようがないなあ」から明確にスイッチが入り、プレイが「聴き手に対するあまあま」から「猫に対する S プレイ」に変化します。それまでとの落差を強調していただきますようお願いいたします。

●猫

- ・生後 6 ヶ月 (●●歳)
- ・思春期。
- ・まだ発情期は来ていない。
- ・一人称は「シロ」。
- ・彼女との仲は主に猫側が一方的に敵視している状態です。

3.『発情ネコとあまあま種付け交尾』

2019年9月

猫がメインのトラック。

キス、耳舐め、正常位、駆弁等。

●彼女

- ・21歳（大学4年生）
- ・就活中。
- ・冒頭のみの登場。
- ・前トラックと比較して、猫との仲が大幅に改善されていることを表現。

●猫

- ・生後1年半（20歳）
- ・聴き手、彼女よりもまだギリギリ年下。
- ・一人称は「私（わたし）」。トラック後半、過度の興奮状態下では「シロ」に戻ります。
- ・一部、駆弁（体位）のシーンが含まれます。頭の位置を多少不安定に動かしていただけますと幸いです。
- ・一部ト書きにて、ピクニックキス（唇をつけずに舌を絡める）、スロートキス（聴き手の舌を吸い上げる）の指定が含まれます。
- ・前トラックと比較して彼女との仲は大幅に改善しているが、「聴き手を取られたくない」という潜在的な欲求は根強く残っており、そのギャップを自身で言語化できないことに苦しんでいる。
- ・10代の頃のような、漠然とした不安やモヤモヤをお芝居で表現いただけますと幸いです。

4.『妻とまつたりベロチュー手コキ』

2020年6月

彼女単独のトラック。

各種キス、手コキ、耳舐め等

●彼女

- ・22歳（社会人1年目）
- ・聴き手と結婚したばかり。結婚式翌日のエピソード。
- ・ト書きにて、バードキス（唇の先で軽く、何度も合わせる）、ニップルキス、口移しからのディープキス等の指定が含まれます。
- ・お酒が入っており、酔いがまわったり覚めたりする。甘えたがりで明るく楽しく色っぽい酔い方をします。
- ・入社直後の忙しさや仕事がままならない自分への悩み、聴き手が猫とは生でセックスしているにも関わらず自分とは避妊具を装着している事への割り切れない思いなど、この時期特有のモヤモヤした気持ちを複数抱えており、それが言葉の端々に滲み出でています。

●猫

- ・生後2年2か月（24～25歳）
- ・登場しません。

5.『インタールード』

2022年8月

聴き手の登場しないトラック

彼女の視点から、猫との2人きりの交流を描く。

情緒を解さない猫の何気ない行動が、彼女にとっての救いになる。

●彼女

- ・24歳（社会人3年目）
- ・クオーターライフ・クライシスに直面し、淡泊になりつつある夫との関係や、職場での自身の伸び悩み、下からのプレッシャーに押しつぶされかけている。
- ・本トラックでは聴き手の立場になります。（編集時にモノラル音源に変換します。）

●猫

- ・生後約4年半（33～34歳）
- ・壮年となり、これまでのトラックよりも落ち着きのある性格になっている。
- ・ただしあくまで猫であるため、深い思考などはできない。（人としてみるとアンバランス）
- ・彼女の涙を舐めたのは完全に猫の習性であり全く含みはないが、それでも聴き手にとっては救いに感じられている、という程度のニュアンスがほしいです。
- ※悔し涙は交感神経が優位に働いているため、塩辛いといわれている。

6.『キス魔な妻とペロチューだらけの本気子作りセックス』

2026年10月

キス、耳舐め、騎乗位等。

聴き手から見て前方左側にドアがあり、猫が出入りする。

双方の発言にトラック8への前振りが含まれる。

●彼女

- ・28歳。
 - ・一時期の淡泊な夫婦関係は改善され、甘え甘えられの関係を構築。
 - ・猫の性格の変化もあり、猫との関係はよりざっくばらんになっている。
 - ・ト書きにバードキスの指定があります。
 - ・彼女側の唯一のセックスシーン。聴き手に対してMになるのはもちろん、猫の奔放な煽りにも振り回されます。
 - ・153ページ「中出しされちゃったあ」はトラック1の同台詞との対比です。
- 快楽優先での中出し→妊活としての中出しでニュアンスが異なるように演じ分けていた
だきますようお願ひいたします。

●猫

- ・生後8年半(50歳)
- ・中年となり、いわゆる「おばさん」的な性格になっている。
- ・猫そのものの気質もあって、デリカシーが無い。
- ・半面、長年一緒に暮らす中で、多少なり人間の機微をくみ取れるようにもなっている。
- ・彼女への煽り等は、トラック8の展開に対するやり返しのような意味合いが強いです。既に仲良しでありお互いの認識としてもじやれあいの延長。あまり殺伐とし過ぎないように
お願ひいたします。

7.『吐息に包まれながら万年発情ネコと湿度ムンムン交尾』

2034年12月

死を間近に控えた老猫とお別れ&静かにセックス。

●彼女

- ・36歳
- ・老猫の介護、迫りくる死を感じながらも気持ちの整理がつかず、受け止めきれないでいる。
- ・猫と聴き手の肉体関係に関して思うところはなく、現在はただ慈愛しかない。

●猫

- ・生後約16年半（82～83歳）
- ・声は変わらないが、キャラクターとしては完全におばあちゃん。ロリババアではなくロリ声のおばあちゃん。
- ・耳が遠く、動きや喋りは緩慢。声が大きい。
- ・独特のリズム、抑揚、イントネーションで喋る。
- ・感性が鈍化しており、自身に迫る死を理解した上で特に悲壮感もなく受け入れている。
- ・セックスの最中も有声音はほとんど出さず、主に吐息にて表現。
- ・プレイ中、徐々に若返り、意識がはっきりしてくる。一人称も揺れる。
- ・彼女の涙を舐めとるシーンはトラック5を踏襲しています。内心はどうあれ、前回よりも人の心に寄り添っていると汲み取れるようなお芝居をお願いいたします。
- ※悲しい時に流す涙は副交感神経が優位に働いており、甘いとされている」。

9.『「猫は液体」についての見解と考察②』

2036年3月

猫の失踪後（死後）に残された夫婦ふたりの会話トラック。

作中の18年間を過ごした部屋を引き払う際のやり取り。

舞台はリビングのテーブル。聴き手の左耳側がカウンターキッチン。

「老衰で家族を亡くした遺族の空気感」がテーマで、「悲しいけれど過度に湿っぽいわけではなくむしろドライ。お葬式で顔を合わせた知り合いと笑いあえる程度の穏やかさ。でもやっぱり少しだけ寂しい」といった空気感の表現を目指します。

●彼女

- ・38歳
- ・猫の失踪から1年以上が経ち、平静を取り戻している。
- ・ラストのシーンは、カウンターキッチンからリビングを眺めながらの台詞です。
- ・台詞の合間に時折マイクから視線を外す、頭を動かすなど軽めにアクションを入れていただけますと幸いです。

●猫

登場しません。